

父年ひと昔

TONERI My 全人倶楽部

36

2021年
10月1日号

発行 編集 敬文舎

〒160-0023

東京都新宿区西新宿3丁目3-23

ファミリー西新宿 405

TEL: 03-6302-0699

FAX: 03-6302-0698

E-mail: keibun-sha@aria.ocn.ne.jp

決定、世界遺産!! 北海道・北東北の縄文遺跡群

北の自然と野生動物

私の縄文イメージ

手島圭二郎

私の最初の絵本『しまふくろうのみずつみ』が日本絵本賞を受賞したとき、「この絵本は、現在の日本人の心のなかに眠っている縄文時代の感覚を呼び覚ます」とのうれしい批評を受けた。

夜の湖の静けさ、暗さ。月の輝き。

キラキラ光って広がる波紋。そしてシマフクロウ親子三羽だけの世界…。

人間が、それまでつづけていた樹上での生活から地上での生活に変わったのは、五〇〇万年前といわれている。

地上では、樹上生活より危険が多く、生きるために鋭い観察力を必要とした。

野生動物がいつも辺り（あた）を警戒している感覚、どんな小さい変化も見逃さない鋭い感覚、そしてひとりですべて生きていく必要があった。

どんな土地に住んだ人間にも、その歴史の痕跡には明と暗が存在する。約一万年前に、日本の南と北から少数の人が海を渡ってきて住み着き、少しずつ数が増えていった。

明の部分は、日本の土地は植物がよく育ち、豊かな河川にも恵まれて住みやすい土地だったこと、そして暗の部

分は、当時の人ひとは短命で四〇歳ほどで老人になり死んだとされる。人肉喰いの証拠もあり、きびしい暮らしだったことがうかがえる。

私は、縄文人のイメージを、スケールの大きい大自然のなかで、現在よりもはるかにきれいな空気・水・海に囲まれて、エネルギーが豊富な暮らしをしてきたと考えている。縄文土器に見られるデザイン感覚から、きびしい生活に打ち勝つだけのエネルギーにあふれた幸せな生活を営んでいたと考えたい。

*
木を彫るといって木版画の表現は、筆で描く絵よりも作者の魂が込められる。また、彫る作業も刷る作業もいっさい修正がきかず、緊張を強いられる。それが、見る人に心地よい緊張感として伝わるのだ。

木版画はすべて手仕事で、体力と根気が必要だ。これは、縄文人の道具づくり、工芸品づくりを思わせる。

私の頭の中に、将来絵にしたいと温めてきたひとつの構図がある。「シマフクロウ幻想」である。

縄文時代の自然、どこまでもつづく巨木の樹海、遠くに湖が輝いて見える…。夜になると、巨木の樹洞からシマフクロウ夫婦が顔を出す。黄色い目の輝き、見渡す限りのたくさんの樹洞から黄色い目が見える。

月は中天に輝き、シマフクロウ夫婦が月に向かってボウ、ボウと二声、もう一羽がボーと長く鳴く。シマフクロウの合唱が、原生林に響き渡る…。

私が野生動物をテーマにして思うことは、人間の社会が変わっても野生動物の世界は変わらないこと、そして現代社会の人間にとっては、野生動物から多くの学ぶべき点があること。

私は、北見オホーツク管内で生まれ育った。野生動物が身近にいた環境で育った幸運を感じている。



●てしま・けいさぶろう
絵本作家。1982年、絵本
につぼん賞受賞。

日本考古学入門⑦

『八ヶ岳山麓の縄文文化』

ビーナスと女神に

出会える黒曜石の里

鵜飼幸雄

縄文時代の国宝は六件ある。そのうちの二件が、八ヶ岳山麓の北山浦の出土である。

ともに土偶で、ひとつは縄文国宝第一号の「縄文のビーナス」、もうひとつが「仮面の女神」である。中部山岳地帯の一小地域に国宝が二つ存在するのであり、このことは列島の縄文文化の広がりからみれば、驚くべきことと云えよう。

縄文時代は、約二万五〇〇〇年前から二五〇〇年ほど前まで、一万年以上つづいた。なかでも中期(約五〇〇〇年前)は、遺跡がふえて縄文文化がもつとも高揚して充実した時期である。

「縄文のビーナス」はその中期に、「仮面の女神」はそれにつづく後期の比較的早い時期につくられた。

二つの国宝土偶が出土した北山浦は、八ヶ岳の西麓と霧ヶ峰南麓の地理的範囲をさし、現在の茅野市域をいう。東は蓼科・北八ヶ岳の峠で千曲川を介し

て北関東や北信方面へつながり、西は諏訪湖から伊那谷へ、南は山麓伝いに山梨・南関東方面へつながっている。そして、霧ヶ峰の黒曜石原産地にもっとも近い場所である。

尖石遺跡など、北山浦の縄文遺跡を発掘すると、黒曜石が多量に出土する。とくに霧ヶ峰南麓の遺跡は「矢じりの工場」とよばれ、無数の黒曜石が散布し、それによってつくられた石鏃の数は想像もつかない。考古学者の藤



「縄文のビーナス」 縄文中期 棚畑遺跡出土



「仮面の女神」 縄文後期 中ツ原遺跡出土

森栄一は、一時間で三六〇余個の石鏃を採集した記録を残している。

霧ヶ峰南麓の縄文人は、原産地の鉾山へ登り、黒曜石を掘って運び出し、石鏃をつくった黒曜石技術者の集団である。その本拠地の北山浦は、黒曜石を各地へ流通させる基地となった地域であった。青森県の三内丸山遺跡でみつかつた霧ヶ峰産黒曜石の石鏃などはこちらでつくられたブランド品ではないかと思われる。

「縄文のビーナス」はその霧ヶ峰南麓の棚畑遺跡から、「仮面の女神」はそこから四キロ東の中ツ原遺跡の出土である。私は、三歳と四六歳のとき、この二つの土偶の発掘にかかわつたことで八ヶ岳山麓北山浦の縄文文化の特質について考えてきた。日本の縄文文化を象徴する二つの国宝土偶誕生の歴史的背景についてである。

本書ではそのことを、八ヶ岳や黒曜石など縄文人をとりまく環境と、土器や土偶にみられるすぐれた造形美をつくり出して暮らした、縄文中期の人びとの生活と文化のなかに探ってみるの目的である。

本書により、八ヶ岳西麓北山浦の縄文文化について、広く紹介できることを幸いとしたい。

●つかい・ゆきお／長野県生まれ。立正大学文学部史学科考古学専攻卒業。前、茅野市尖石縄文考古館館長

令和3年度 長野県立歴史館秋季企画展

『全盛期の縄文土器——圧倒する褶曲文』

甲信越の土器、

大集合

水沢教子

長野県立歴史館は千曲市屋代の地に平成六年(一九九四)に開館しました。考古資料や文献史料の収集・整理・保存(管理・修復)機能に加え、それらを展示・教育普及するための展示機能も備えた複合施設です。

展示室は大きく二室で、うち常設展示室では原始・古代・中世・近世・現代の順に長野県の歴史を実物資料とジオラマで紹介し、企画展示室では主に春、夏、秋、冬の四回の企画展を開



円環突起付台付鉢 塩尻市上木戸遺跡出土 長野県立歴史館蔵

催しています。今回は、一月三日までの予定で開催中の企画展「全盛期の縄文土器——圧倒する褶曲文」についてご紹介します。

長野県および山梨県を中心とする中央高地では、縄文時代中期中葉末から後葉の初頭を中心に、土器の装飾がきわめて複雑化します。とくに実用性から大きく外れた複雑な隆帯装飾や大形の把手は同時期の縄文文化のなかでもきわめて特徴的といえます。

そこでこの時期を縄文土器の貼り付け装飾が歴史上もっとも複雑化した「全盛期」ととらえ、「人びとはなぜここまで複雑な渦巻きを立ち上げたのか」をキーワードに、甲信越の代表的な土器——二点(茅野市棚畑遺跡・新潟県笹山遺跡・山梨県甲州市釈迦堂遺跡・安道寺遺跡ほか)を展示、同時に土器修復の技も紹介しました。

展示構成は、四つのテーマを軸に資料を見ていただきながら、土器にまつわる謎を追究していく、といった流れになっています。

まずテーマでは、井戸尻川式土器のへび・カエルなどの動物を抽象化した文様を紹介します。この伝統の上に、中頃から諏訪湖周辺で成立した梨久

保B式、八ヶ岳西南麓以西の曾利式へとつづきます。

梨久保B式の褶曲文や籠目文は、口縁部から頸部を中心に精緻な弧や直線を重ねて描く文様で、信州に伝わる職人気質の嚆矢のようにも見えます。これに対し曾利式の水煙文は外に向かつて渦巻きをダイナミックに連ね、立ち上げていく発展的な装飾です。

テーマIIでは、さらに山梨県出土土器に加え、円環形とドーム形の水煙文土器を紹介します。テーマIII・IVでは水煙文土器の生成に関与した要素を追究していきます。地元顔面把手付土器などの伝統、東北信の焼町式土器、東北地方の大木式、さらには新潟県の火焔型土器を順に紹介します。

土器文様は土器を保有する集団の表象であり、その伝達は集団間の関係を映す鏡です。水煙文土器の成立をめぐる集団間の文様の授受、水煙文土器の短期間での終焉、そして一気に土器文様の簡素化が起こる背景に思いを寄せながら、全盛期の縄文土器の技をお楽しみいただけましたら幸いです。

●みずさわ・きよつこ／長野県立歴史館 専門主事学芸員

『八ヶ岳山麓の縄文文化』

縄文文化

鵜飼幸雄

五千年前の縄文人の暮らし

「縄文のビーナス」と「仮面の女神」、二つの国宝土偶が出土した八ヶ岳西麓は、どんな場所だったのか? 黒曜石の交易、山と湖の豊かな恵み、五千年前の人びとの暮らしとは?



〈本書の内容〉

- [第1章] 縄文文化の象徴
[第2章] 北山浦の環境と縄文中期の遺跡
[第3章] 縄文文化繁栄の姿
[第4章] 黒曜石の文化力
[第5章] 縄文の立柱祭祀と御柱

A5判 並製
128ページ(オールカラー)
予価:2,200円(税込)

ヒスカルセレクション
続刊のご案内

日本考古学入門⑥

『琉球の考古学』

宮城 弘樹 (沖縄国際大学)

●考古学による琉球列島史

日本考古学入門②

『縄文時代』

山田康弘 (東京都立大学)

●定住生活の始まりと社会の複雑化



長野県立歴史館正面
後方右寄りに、4世紀の前方後円墳、森將軍塚古墳がある。

- 会期: 2021年9月18日(土曜日)~
2021年11月23日(火曜日・祝日)
●休館日: 月曜日(ただし9月20日は開館)
祝日の翌日(9月21日(火曜日)・
9月24日(金曜日)・11月4日(木曜日))

地元の人たちが発掘した 縄文遺跡群

ゆったりと裾野を流す八ヶ岳。その南の麓、広大な裾野がもつと狭まった場所に井戸尻遺跡はあります。甲斐駒ヶ岳や鳳凰三山など南アルプスの山並みが眼前を遮り、はるか東南に秀麗富士を望む景勝の地であるとともに、縄文時代の人ひとりの往来の結節点だと考えられています。ここには井戸尻をはじめ、曾利・藤内・



山々に囲まれて展開する井戸尻遺跡。国史跡。お弁当を広げる小学生たち。

九兵衛尾根など著名な遺跡が集中し、井戸尻遺跡群を構成しています。

およそ5500年前から四五00年前この地域には縄文時代中期の文化が開花していました。この文化の担い手たちは中部高地から西南関東にかけて展開しており、その特色ある文化を「井戸尻文化」と呼ぶことが定着しつつあります。

なかでも諏訪・八ヶ岳から甲府盆地の東南縁までこの文化の主要地域であり、さらに八ヶ岳西南麓こそがその中心舞台であったことが明らかになってきました。

井戸尻遺跡は昭和三年（一九五八）の三月に発掘調査が行われましたが、発掘を行ったのは中央の学者や高名な研究者ではなく、農家や高校生など地元の人びとでした。

「おらあつこの村の遺跡は、おらあつこの手く掘り、おらあつこの村の歴史は、おらあつこの手で明らかにする」、そんな気



館内の常設展示室のようす。5000年前の縄文人の暮らしと息遣いが伝わってくる。

概に満ちた発掘調査は大きな成果を上げ、その年のうちに井戸尻遺跡保存会を結成それが井戸尻考古館のはまりでした。

井戸尻遺跡保存会は、その後も周辺遺跡の発掘調査と研究を進め、きつぎと成果を上げ、中部地方の縄文研究を牽引しました。そして昭和三十七年には、長野県考古学会の記念すべき第一回大会が、山梨県との境、長野県のはずれの小まな考古館で開催されたのです。

井戸尻考古館は、井戸尻遺跡群のほか、町内の遺跡から出土した石器や土器を多数展示した「縄文の専門館」です。藤内遺跡出土品ほか重要文化財が二件一〇〇点、全国的によく知られた水煙渦巻文深鉢をはじめとする曾利遺跡の縄文土器など長野県宝が二件二百点ほど、すぐれた造形の土器が目立ちます。

また地域に根差した独自の研究姿勢はその後も引き継がれ、井戸尻編年の確立や縄文農耕論の検証、縄文図像論という分野の開拓を進めました。ほかでは感じられない縄文人の思っつけい、ぜひご自分の眼でお確かめください。



水煙渦巻文深鉢

学芸員 ご紹介！ ここが見所、我が博物館 地元密着型の テーマが好評です

是川縄文館
副参事（学芸員）
小久保拓也

井戸尻考古館
館長 小松隆史

観覧料がかかります。常設展示室は、資料保存のため照度を抑えた展示室で、資料にのみスポットライトを当てることにより縄文の工芸品が浮かび上がるような空間を体験していただけます。

また、多種多様で保存状態の良い縄文時代の漆器や木製品は、鮮やかな赤色漆で彩られており、国内随一の展示コーナーといえます。

つづく「縄文の謎」展示室は、中居遺跡の低湿地調査の成果を、環境・くらし・技・漆文化の広がり四テーマから解説しています。

そして、国宝展示室は、風張一遺跡から出土し、平成二二年に国宝指定された「合掌土偶」をじっくりと鑑賞いただけるよう、単独で展示しています。さらに企画展示室では、常設展示が見慣れてしまっても新たな発見がある

赤色漆塗り壺形土器 中居遺跡（約三〇〇〇年前の縄文時代のムラ）出土 きれいな形のまま残っているものが多い。



青森県八戸市 是川縄文館
重文・国宝の
鑑賞から体験学習まで

一階には、カフェ・ミュージアムショップ・体験交流室があり、二階に常設展示室・国宝展示室・企画展示室・体験交流室・図書コーナーがあります。入館は無料となっております。展示室のみ



合掌土偶 風張一遺跡出土 国宝

よう、年に三回の企画展を催しています。企画展は、県内の各地域の縄文文化を近年の視点から紹介し、特別展は、県外の優品や重要遺跡を紹介する内容となっております。

夏と秋の企画展示には、考古学講座を開催するほか、毎回展示図録を刊行しており、図録はミュージアムショップでお求めいただけます。このほかに、第一線の研究者を招く考古学講座を年六回開催しています。

また、当館では土器づくりや布編みなど、縄文のものづくりが体験できる講座や教室を開催しています。これら体験学習の指導や展示ガイドは、市民ボランティアが中心となって活動しています。

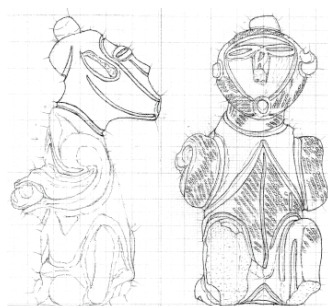
是川縄文館は縄文の国宝・重要文化財が鑑賞いただける場所ですが、是川石器時代遺跡の史跡整備により、さらに、世界遺産をご覧いただける場所となります。変化をつづける是川縄文館にぜひご来館ください。



第8回
後ろ手出産土偶
—土偶の性別(3)—

設楽博己（元・東京大学教授）

国立歴史民俗博物館は、いろいろ良い先史遺物をもっている。そのひとつが青森県南部町下比良遺跡出土の土偶である。高さが一〇センチほどの小さな縄文後期の屈折像土偶である。屈折像土偶は座産シーンをかたどったとされるが、この説に立つ先史考古学の小林康さんは、腕を後ろにまわした姿勢に注目してこの土偶を「後ろ手出産土偶」と名づけた。



青森県下比良遺跡の
後ろ手出産土偶
(イラスト 設楽博己)

岩手県軽米町君成田遺跡の縄文晩期の後ろ手出産土偶は、はちきれそうな腹に正中線と妊娠線を加えたうえに、いまにも赤ちゃんが飛び出してきそうなるほどに性器が誇張されている。

山梨県笛吹市・甲州市釈迦堂遺跡の屈折像スタイルの土偶も、おなじくはち切れそうな腹に正中線を加え、股から赤ちゃんが顔をのぞかせている。縄文中期の土偶である。

前回お話しした腕部双孔土偶と後ろ手出産土偶は、腕を輪にして棒に通したり後ろ手をがっちり組むなど、いずれも出産の痛みに耐えるポーズとみてよい。

腕部双孔土偶も後ろ手出産土偶とおなじく、縄文中期から晩期までである。およそ二〇〇〇年間にわたり、出産時の姿勢がずっとおなじだったのである。土偶のかたちだけが継承されたのかもしれないが、出産にかかわるポーズとして伝承されていたわけだから、おそろべきサステナビリティー（持続可能性）といわなくてはならない。伝統社会としての縄文社会の一端が垣間みえる。

*

前回お話しした映画「セテック・バレ」は、蜂起の中心をなしたセテック族の頭目、モーナ・ルダオが日本の風習やファッションに染まっていくまわりの若者たちの姿を、煙草をくゆらしながら苦々しく、そしてやるかたない表情を浮かべながら事件を回想するシーンで終わっている。

実際には、ルダオは日本軍から逃れて山中で亡くなるのだが、そこはだいぶ脚色されている。わたしはルダオの心中を、というよりも監督の想いを察しながら考古学に引き寄せて二つのことを考えた。

ひとつは、縄文文化と弥生文化の相克である。日本列島にやがて農耕文化が入ってくる。それは占領のような苛烈なものではなくじわりとしたものであったが、異文化接触という意味では、縄文／弥生社会にもルダオの周辺と似たような状況があったのではないかと想像される。

もうひとつは、縄文土偶の行方である。いずれにしても、伝統社会や伝統文化がどのように変質を上げていくのか考えさせられる映画であった。弥生土偶の話はまだいずれ。

地域研究レポート

北辺の縄文事情を知っていますか

山原敏朗

世界遺産への登録が決まった「北海道・北東北の縄文遺跡群」。北海道側の遺跡は、津軽海峡北岸の函館から石狩南部の千歳にかけて点在する。一応申し添えておくと、縄文というのは、いにしへの多様な地域文化の集合名詞でもあり、北海道の縄文文化もまたこの「世界遺産ゾーン」だけ

ですべてが語れるわけではない。その理解の一助として、帯広にある遺跡をひとつ紹介したい。

遺跡の名前は八千代A遺跡。場所は国内屈指の畑作地帯である十勝平野の西縁、日高山脈から延びる丘陵が間に迫る山裾の一角にある。沢水が浸す湿地に面した九〇〇年前ごろの集落遺跡で、三年間の発掘調査の結果、一〇五軒もの竪穴住居跡が見つかった。今から三〇数年前のことである。

ほとんどの竪穴住居跡は、私たちが甍式と呼ぶ土器を作った人たちによって残されたものである。列島内でも有数の古さとなる大規模集落遺跡が縄文文化の北辺で見つかったことは、当時からちょっとした驚きをもって受け止められてきた。

竪穴住居跡の多くは密集し、重なり合つなど何層も建て直された状況が確認された。年代測定分析からは五〇〇年くらい続いた集落と推測できるが、その間に彼らが一三〇軒の住居を建て、一軒あたり二〇年使用したと仮定すると、同時的な住居の数は五軒余りとなる。

甍式土器というのは、日高山脈西麓（石狩東縁・日高）から東側（十勝・釧路・根室）にかけての地域を中心に分布する平底の土器である。人目を引くような派手さには乏しいものの、印象的なのは底に付いたホタテガイの貝殻圧痕で、内陸の八千代A遺跡でも半



八千代A遺跡の竪穴住居跡群

分くらいに付いている。土器作りの台座として使われたのだが、それだけの用途ではなかったかもしれない。入手方法や中身の行方も気になる。

甍式土器以上に貝殻を常用しているのが同時期の「世界遺産ゾーン」の土器である。ただ、貝種はアカガイなどフネガイの仲間で、ホタテではない。なにより底が尖っているのので、違いはひと目でわかる。

土器に象徴されるように、九〇〇年前の北海道では東西二つの地域文化が並立していたのである。

八千代A遺跡の代表的な出土品は、定住がはじまったころの道東の文化内容を示すものとして、平成三〇年、国の重要文化財に指定された。遺跡は、現在は平らな畑となつて私たちの胃袋を満たすために尽くしている。

願わくは遺跡を地形ごと復元し、人が集つ場として再出発させたいと妄想していることも、ついでながら吐露しておく。

●やまはつとろう
帯広百年記念館 館長

上の坊遺跡

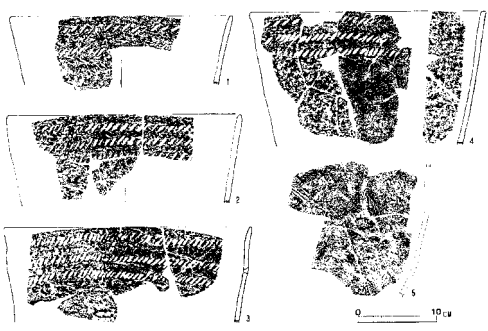
縄文前期の作業場

須田英一

上の坊遺跡は、静岡県伊東市に所在する縄文時代早期・前期を主体とする遺跡で、海拔約一二・五メートル、海岸線までは約一キロの小低地に位置している。

世界的な気温上昇により、早期から前期にかけて関東地方を中心に平地低地部には海水が侵入し、複雑に入り組んだ海岸線が形成されたが、このことを考へて遺跡の立地を考へる必要があるだろう。

上の坊遺跡からは、戦前期の調査での中に「上の坊式土器」と名付けられる土器群が出土した。口縁部に沿つて爪形の文様を斜めに連続的に付けた薄



上の坊式土器実測図 口縁部に巡らされた斜めの爪形文様が特徴となっている。

手の土器で、東海地域に分布する土器群のひとつである。上の坊遺跡は、「上の坊式土器」の標式遺跡であることを、学術的価値の面からまず強調しておきたい。

昭和五〇年と五一年の調査で、竪穴住居址などは確認されていないが、土坑四九基が発見され、そのうち三〇基からは、焼けた動物骨片や骨粉と炭化物等が出土しており、調理用の施設と考えられている。動物骨片は縄文人にとつて身近なイノシシ・シカや魚骨であった。

石器としては狩猟具である石鏃や、調理・加工具である磨石・敲石・石皿・台石が大量に出土している。漁撈具である石罾もごく少量見られる。

縄文時代の主食はドングリ類・トチや、クズ・ワラビ・カタクリ等の地下茎・根茎類と考えられている。縄文人は手になじむ大ききの磨石・敲石を握り、平たい石皿・台石の上でドングリ類をつぶして、粉状にした。

ドングリ類のアクは水溶性のタンニンであるが、西日本のカシ類とちがつて東日本のクヌギ・ナラ類は一〇〇回以上の煮沸と水さらしをする必要がある。そしてできた澱粉を練つて団子状にしてスープに入れたり、クッキー状にして焼いて食したと考へられている。

縄文時代の主要な生業は、狩猟・漁撈と植物質食料の採集・加工と考へられるが、上の坊遺跡では、出土石器からみて、植物質食料の調理・加工に重



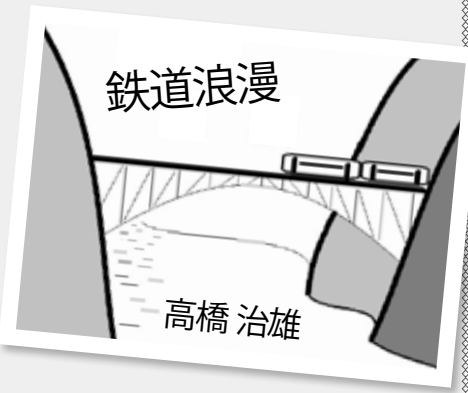
予備調査のトレンチの状況（南から）

点を置き、黒曜石製の石鏃とともに黒曜石の石屑も多く出土していることから、石鏃製作も行われたと考へられる。集落の周辺に営まれた調理場・作業場の性格を持つ遺跡であつたらう。

上の坊遺跡の最初の発掘は、昭和三年に行われた。その発掘調査のメンバーのひとりには江藤千萬樹という人物がいる。大正六年（一九一七）にアメリカで生まれ、大正一二年に帰国、静岡県沿津市に居住した。國學院大學で考古学専攻に没頭したが、卒業して間もなく応召され、昭和二〇年六月に沖繩本島で戦死した。享年二十九歳。将来を嘱望された研究者であつた。

昭和五〇年と五一年に実施された上の坊遺跡の調査報告書は、ボランティア諸氏の力添えにより昨年一二月に刊行された。調査から四五年の年月を経て刊行されたうえ、ボランティアの参加により成し遂げられたことへの賛辞の言葉を関係者へ贈りたいと思う。

●すだ・えいち
湘南考古学同好会副会長



第16話 津軽のゆめ

津軽地方を走る津軽鉄道は乗つて楽しく、とくに冬のストーブ列車と満開の桜の下に行く列車は旅情を誘つてやまない。地元に住む皆さんにとつても、大切な生活路線となつている。

豊かな稲穂をイメージした黄色い列車は、大宰治の小説にちなんで「走れメロス」のヘッドマークを掲げて走っている。

*

終点の津軽中里から徒歩一五分ほどの中泊町立博物館は、鉄道マニアにとつてのオアシスである。我が国で最初に開業した森林鉄道である津軽森林鉄道の展示は興味深く、エントランスのディゼル機関車は迫力満点である。走れメロスの津軽鉄道に關しても、出札口体験などをはじめとす



る数々の展示が興味をさそつ。

そしてもうひとつ見逃せないのが、この地で発掘された遺跡の展示である。近辺には縄文時代以前からつづく遺跡が多く、多数の出土品や民具などが紹介されている。

また、大陸との交易によつて博多や堺と並ぶほどに繁栄した港町であつたのに、南北朝時代に起きた津波で消滅したとされる十三湊にも近い。

*

津軽鉄道はJR五能線に接続する津軽五所川原から津軽中里までを結ぶ二〇キロの路線で、昭和五年（一九三〇）十一月に開業した。

開業に先立ち、陸奥鉄道の手で大正七年（一九一八）に開業した川部五所川原間が昭和二年に国有化され、陸奥鉄道に資本金のおよそ二倍に当たる金額が支払われた。川部五所川原間は現在JR五能線の一部となつている。

そこで株主たちは、売却金を資金源として五所川原と中里を結ぶ鉄道の建設をはじめた。この区間も国有化が見込まれていたため、ふたたび多大な利益が得られることを期待したといわれている。しかし、用地の取得に失敗して泥炭地を通ることを余儀なくされるなど、建設費用がふくらんだ上に昭和の恐慌のため、開通したものの経営は不振をきわめた。

そこで、津軽鉄道は駅の増設や沿線の行楽地を桜の名所にして増収を図り、さらにガソリンカーを導入するなどして経費削減を図つた。その甲斐あつて黒字化を果たして経営が安定した。

しかし、昭和十九年と昭和二十年、二度にわたつて火災に見舞われ、施設や車両を大量に消失するなど、津軽鉄道の歴史も、悲劇の十三湊には及ばないものの、波乱に満ちたものであつた。

串を持って、団子を食べるの上品な作法は無用。

「花よりも団子とだれか岩つつじ」室町時代の『新撰犬筑波集』にある。風流より実益、外観よりも実質を重んじることをいう。

団子のルーツを探れば、縄文時代、クヌギやナラの実（どんぐり）は、食べるために粉にし水にさらし、強いアクぬきをして、粥状や団子にして食べていたと思われる。

平成十一年「だんご3兄弟」という童謡が大ヒットした。仲の良い兄弟だんご、月見、花見と一年中だんご、だんごと歌う。

さて串団子をいうとき何個刺しを思い浮かべるだろうか。室町時代にはすでに串刺しの団子があったよう

私たちの活動を紹介します

御所野遺跡の縄文文化を世界へ

今年七月にユネスコの世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」。その構成資産のひとつに御所野遺跡があります。

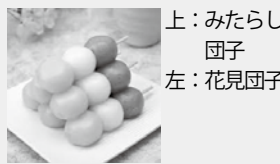
この御所野遺跡を中心に活動しているのがわれわれ「御所野遺跡を支える会」です。御所野遺跡の整備の際に

連載

ちょっと和菓子のつまみぐい

四皿目 団子

和菓子散歩の会・令和甘党 吉村幸生



上：みたらし団子
左：花見団子

で、関東・東京は四つ刺し、関西では五つ刺しが多いと言われる。

しょう油をつけ甘辛に仕立てた団子を「みたらし」と呼び、各地にあるが、ルーツは京都の下鴨神社にあるらしい。土用の丑の日、竹串に団子を五個刺し、いちばん先はやや大きく、あとの四つはやや小さく、二番目との間隔がある。

これは頭と四肢を表し、人型を意味して、無病息災を祈る「御手洗祭」の神饌菓子であった。

月見団子から花見団子、全国各地の社寺、門前など、その土地なりの名物団子がある。浮世絵や風俗画にもその時代の団子が登場している。

団子は、いつの世にもだれからも親しまれている和菓子といえよう。

ボランティアとして遺跡にかかわりたいと「御所野遺跡ボランティアガイド講座」を受講したメンバーが中心となって平成一三年に設立されました。

おもな活動は遺跡来場者へのガイドで、不定期に研修会を開催し最新の研究成果を学びガイドに活かしています。

また世界遺産登録により外国人観光客の増加が見込まれることから、外国語ガイド講座も実施し、ガイドの質の向上をめざしています。

それ以外にも火起こし体験などの体験学習の補助や遺跡公園内に植栽されている樹木の名札掛けなど幅広く活動しています。

またメンバー有志が縄文食部会を立ち上げ、トチの実や山菜などの食材を調理したり、公園内に設けた畑でエゴマやマイモなどを栽培するといった活動をおこなっています。

このように活動内容は多岐にわたっていますが、「無理せず、楽しくコツコツと」をモットーに日々活動しています。

●御所野遺跡を支える会 連絡先/〒

028・5316 岩手県二戸郡一戸町 岩館字御所野2 御所野縄文博物館内 電話0195・32・2652

編集後記：『日本文化のルーツ、縄文特集』

- 日本で25番目の世界遺産として「北海道・北東北の縄文遺跡群」が登録された。約1万5000年つづいたといわれる縄文時代…この機会に、各地の縄文遺跡を巡ってみるのはいかがだろうか。
- 巻頭にご登場いただいたのは、絵本作家の手島圭三郎さん。北海道北見で育った手島さんは、縄文時代を、きびしい生活に打ち勝つエネルギーに溢れていた時代と考える。氏の作品には、深い森と湖、そこに住むシマフクロウの親子が描かれる。幻想的な作品だ。
- 『八ヶ岳山麓の縄文文化』の著者、鶴飼幸雄さんは、発掘中、「縄文のビーナス」と「仮面の女神」に遭遇した。ともに国宝となっている土偶である。
- 長野県立歴史館で開催中の「全盛期の縄文土器」展は、中部地方の主要な土器が大集合している。機会があれば、ぜひ見ておきたい。
- 博物館は、井戸尻考古館（長野県富士見町）と是川縄文館（青森県八戸市）を紹介。ともに縄文時代が学べる代表的な博物館である。
- 帯広百年記念館館長の山原敏朗さん、湘南考古学同好会の須田英一さんによる発掘情報や、御所野遺跡を支える会の活動など、縄文時代満載です。

あなたも入会しませんか

My 0 人 TONERI 倶楽部

好評 始動中!

歴史好きの方、あるいはこれから歴史を学ぼうとする方々とともに、歴史を知る楽しみを目的として集い語り行動する倶楽部です。現在、講演・講座の開催などで研究者との交流も行ってあります。

当倶楽部は、随時入会可能です。奮ってご参加ください。

■入会特典

- 講座・講演会の割引|優待や無料受講券の進呈。
- 捺印5個で受講が1回無料になるスタンプカードの発行。
- 会報「My 0 人倶楽部」を年4回送付。

■年会費

一般会員 3,000円/賛助会員30,000円
特別賛助会員100,000円

(会費のお支払い方法は、お申し込み時にお知らせいたします)

■お申し込み方法

お名前、ご住所、電話番号、メールアドレスを明記の上、敬文舎または0 人倶楽部までEメール (toneri.k@blue.ocn.ne.jp) にてお申し込みください。

0 人倶楽部会報、講座などについて、ご意見・ご感想をお寄せください。
toneri.k@blue.ocn.ne.jp

敬文舎ホームページ

<http://k-bun.co.jp>